

学校点描^{プラス}

新型コロナ感染拡大のために合唱祭を
3日に延期しました。一度高まったやる
気を再度あげることができるでしょうか
《K中学校》

NO.11

R4. 11. 1

担当：校長

10月14日の昼に、S・SさんとI・Jさんが校長室に、合唱祭のプログラム原稿と同日のあいさつのお願いをしに来ました。今年度の合唱祭のテーマは「荘厳美麗（そうごんびれい）」です。「よくこんな言葉見つけたね」と尋ねたら、Jさんが、「一人一人から言葉を集めて、それに近い熟語を調べました。」と答えてくれます。「1つの学年に複数学級のあるK中学校最後の合唱祭だからがんばって」と言ったら、Sさんが元気に「はい」と返事をしてくれました。

10月15日（土）は、県内で新人大会の北ブロック大会や県陸上選手権大会が開催されました、卓球男子団体や個人、ソフトテニス女子団体にも出場しましたが、入賞には届きませんでした。一方、陸上選手権ではY・Kさんが男子3000mで優勝、男子800mで第2位に輝きました。おめでとうございます。

第14回山寺芭蕉記念館英語俳句大会は、中学生の部応募総数1486の投句が県内外からあったようです。その中から本校の3年生7名が入選しました。

Summer night
All over the sky
Milky Way
(T・S)

Sunflower's maze
Enjoy it
Parents and Children
(M・S)

I heard
The sound of feathers
Summer has come
(J・Y)

Cherry blossoms dance
A new school life begins
My heart is dancing
(S・Y)

Wind chimes in the neighborhood
Ring one by one
Like a big performance
(J・I)

Attention, beetles!
Danger is approaching
Look behind
(U・I)

The middle of the night
I fall in love with you
The full moon
(Y・M)

中学生が日頃学んでいる学びの力を、もっともっと社会に発表していくことを続けていきたいものです。

アナウンサーが語ったことから

先週は、チャンネルを変えると各局のニュース番組でアナウンサーが、文部科学省の2021年度実施した調査で「不登校」の小中学生は24万4940人、小中高と特別支援学校のいじめの認知件数は61万5351件と過去最高になったことを話し、傍らにいた教育評論家にその原因について尋ねています。どの評論家の話も、コロナ禍になって会話が減ったこと、マスクをすることで表情が見えにくくなったこと、そして経済的貧困などを原因にあげていました。

統計的な数字を見れば、その多くはそういう原因かもしれませんが、一人ひとりの子どもを見れば、決してそれだけではありません。わたしは、子どもの世界でこれほどの数字があるならば、大人の社会ではもっともっとあるのではないだろうか、そう思ったりします。ハローワークでは、「仕事は好きなんだけど、職場の人間関係で転職したい」という人が増えているようです。

31日（月）吹奏楽部顧問のT先生が、わざわざ校長室に来て、30日に行われた、“JA「ふれあい感謝まつり」”で、本校の吹奏楽部が演奏した模様について報告してくれました。

当日は、大勢の人たちが、吹奏楽部の演奏に足を止めて聴いてくれたこと。演奏した曲目の中でも『上を向いて歩こう』は、高齢の方々が歌詞を口ずさみながら聞き入ってくれたことを教えてくださいました。

生徒たちは、大勢の人たちの前で、日頃練習してきた曲目を披露できたことに、とても充実感をもったようです。

平日や休日に、運動部同様に練習を重ねている本校の吹奏楽部ですが、生徒とともに指導者である顧問の先生の喜ぶ姿に、こちらもうれしくなりました。

いつだったか、たまたま朝テレビをつけたとき、TBS の番組でアナウンサーの安住紳一郎さんがこんな話をしていました。この人は、本当におしゃべりがうまいなあと感心しながら、その話の内容に引き込まれます。

さて、ちょうど1ヶ月くらい前なんですけども。ちょうど、ですから9月の中旬くらいですね。私、出張先のホテルでテレビを見ていたんですけれども。ちょうどNHKのテレビのドキュメンタリーだったんですが。合唱コンクールにかける中学生の姿を追ったドキュメンタリーで。大変感銘を受けまして。

吸い込まれるように見続けたんですが。映像の持つ力に改めて驚きを感じ、いろいろ感じることも多かったんです。こういうドキュメンタリーを作る放送人にならなくちゃいけないな、でも俺、アナウンサーだ、みたいな（笑）。

合唱コンクールにかける中学生の姿。よかったですねー。ご覧になった方、いらっしゃいますかね？何回か再放送していたみたいなので。衛星放送とか教育テレビなどでも。長崎の離島に住む中学生がフェリーに乗って、長崎市内で行われる県大会に出るんですけども。力及ばず、予選で敗退してしまう。すると、顧問の先生ですね。ちょうど 20 代。若い女の音楽の先生が、帰りの、島に帰るフェリーに乗る栈橋で泣き出しちゃうんですよ。

『みんなは十分に予選を突破できる力がありました。ただ、顧問の私の経験不足が原因です』ってこう、ハキハキと言葉を紡ぐんですけども、目からは大粒の涙がボロボロボロボロこぼれているわけです。もう、私この回想シーンを自分でしゃべっているだけで泣きそうなんですけど。

すると、その先生の姿を見て、比較的こう、顔立ちのスッキリした女子部員がですね、『先生、私たちはあれだけ大勢の前で気持ちよく歌えただけで楽しかったですよ！』っていうことを言うわけですよ。ええ。サラリと言うんですよ。しかもね。大人が使う気遣いの顔ではなくて、本当に悔しさのない晴れ晴れとした表情で、そんなドラマのセリフみたいなことを中学生が言うわけですよ。



私はもう出張先のホテルのベッドで正座しながら、もう号泣しておりまして。ええ。声を出してオンオン泣いてたんですけども。

いい関係を築いているな！と思ってですね。やっぱりこういうきちんとした学校の先生がいて、その先生の想いにきちんと応えている中学生が世の中にはいるんだなという、大変清々しい気持ちで見ていたんです。

『よし、大人の俺も明日からがんばるぞ！』っていう気持ちになったんです。

子どもの世界だけに、きれいさを要求するのは幻想です。大人の社会におけるハラスメントをなくし、本当の意味で多様性を認めてあげる社会を作らなくてはいけないと思います。子ども以上に大人のいじめは深刻なのです。大人だって、中学生に負けずそれぞれの個性を尊重して、互いに置かれた状況を認め合う。そんな大人社会を子どもに見せつけないといけないと思います。

吹奏楽部の演奏後に、JA の方からいただいた謝金を顧問の先生が部員に紹介すると、“自分たちの演奏にお金をもらえたなんて申し訳ない”と、純粹につぶやく生徒がいたそうです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。